

みやけの風

第 255 号

平成18年(2006年)1月7日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

新年あけましておめでとうございます。

避難指示解除から早11ヶ月、久しぶりの島での船祝いでお正月を迎えて、ようやく帰島の実感をもたれた方々も多かったのではないのでしょうか？新しい年が、全ての皆さまにとりまして、慶び多き一年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

みんなの声

『蘇る三宅島』

三宅村商工会より配布された2006年度のカレンダーの表題です。月毎にめくると、その写真は、三宅島を取り巻く自然の豊かさ雄大さに改めて、感激しています。

私はその島の阿古地区に帰島して、住まわせてもらっている「ほんとうにありがとう♡」の気持ちでいっぱいです。

今だに火山ガスや噴煙は出ていますが、雄山の内部はどうなっているのでしょうか。

島に人々が戻ってきて、耕地を作ったり、家の修理を手がけたり、すごい活力だなあと感心いたします。どうぞ頑張ってふるさと再生をめざして下さい。

カレンダーには、「島の復興は地元商工業者の利用から!」と記されていることは、大切なことと肝に銘じています。

2006年の新年を三宅島の地で迎えられたことを、心から喜び合いたいと存じます。

(阿古 佐々木美代子)

『覚えていますか？また行きます』

と添え書きした年賀状が届きました。

見た瞬間「覚えていますよ。忘れるものですか」と独り言を言っていました。

ふれあい集会、帰島後のあの寒さの中での除灰作業や荷解きや家の中の片付け、真夏、あの炎天下での作業、暮れの大掃除の手助けと、私たちが落ち着いて生活する用意を手伝ってくださったボランティアさんのことですもの、よく覚えています。

名前と顔は合わなくても、お世話になった方たちの大勢の顔が目浮かびます。名前と住所さえわかれば、お礼状を書きたいとか、年賀状くらい書きたいと思っている人も多くいたであろうに、と思いながら年賀状を見ている。

(阿古 鈴木則子)



三宅島災害・東京ボランティア支援センターより 新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。

全ての皆さま方のご多幸を心から祈ります。

6年ぶりに迎える島の正月は寒さの中で迎えました。小雨降る1月2日の湯ノ浜漁港で船祝いが行われ、神着の木遣太鼓が島人を励ます中、太鼓の脇に腕を組み立ち尽くす津村さんの姿が印象的でありました。鏝が浜ではハート会の婦人たちの元気に立ち働く姿があり、光進丸の佐々木さん、夕景丸の沖山さんも久々の船祝いに高揚する姿は皆を元気づけ、手に手に竹かごを持ち、中には段ボール箱を手にして大量にまかれるミカンで大歓声の中で拾う人々が、帰島の喜びを身体いっぱい表す様子に感動をいたしました。

